

【財務省政策評価懇談会における意見（全体に通じるもの）】

- いつも丁寧に作業いただき、特にコメントはない。
- 国税職員の皆さんが納税者との関係において、一つ一つ実績を積み重ねながら、納税に関わる慣行を作っていることに対して敬意を表している。
- 国税当局がこれまで、実績評価という形で自己の評価やチェックを繰り返してきたことは、大変評価する。
- 令和5事務年度の実績評価について、個々の項目ごとに踏み込んで検討されており、また評価が下がったものも数値的には微々たるものなので、特に異論はない。
- 評価全体について、1%の未達でも、SがAになるという大変厳しく評価しているところも含め、異論はない。
- 国税庁の職員の皆さんは、大変な仕事をされていると思うので、モチベーション維持に留意して仕事に取り組んで欲しい。
- 今回の評定結果並びに評定の理由については、いずれも理解と納得ができるものばかりであり、特段の異論はない。
- 全体として今回の評価は妥当であり、引き続き頑張っていたきたい。
- 知り合いの税理士に税務署の取組について気づいたことを尋ねたところ、多くのコメントがあり、関心が高いのだと感じた。
- 評価は、目標値を設定し、実績値との乖離で判断することになるため、目標値の設定によっては、実績の良し悪しに関わらず極端な評価となってしまう可能性がある。目標値が本当に妥当な数字であるのか検討することが重要。また、実績値がどう推移しているのか、他国と比較してどうなのかというような形で実績値の変化を見ることも重要。